令和５年度　学校評価　氷上中学校パワーアッププラン

１　目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	「地域に誇りを持ち、生涯にわたって学び続ける生徒の育成」 ～地域とともに育む　人とつながり　学びに向かおうとする力～
本年度の重点目標	(1)生徒の確かな学力の育成に向けた、「主体的な学び」を引き出す授業づくり (2)生徒が安全で安心できる「居場所」づくり (3)教職員が協力・協働のもと、組織的に働きやすい環境づくり

２　自己評価（達成状況　　A:優れている　B:おおむね良好　C:やや改善　D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	保護者・地域住民との連携	生徒の様子や授業参観、懇談会、学校行事等の案内など、学校の教育活動の情報を学校だよりやHP等で保護者・地域へきめ細かく伝える。	A	学校便り、学年通信、学校行事の案内等を定期的に発行し、紙面及びHP等で学校の教育活動の情報を知らせることができた。保護者アンケートでは80%以上が肯定的な評価となっている。今後も継続して、子どもたちの様子を地域や保護者へ伝えていく。
		保護者・地域住民の方々にオープンスクールや授業参観、学校行事や講演会に参加していただき、地域に開かれた学校づくりを推進する。	B	オープンスクールを11月16・17日の平日に実施し、両日ともに普段の授業の様子を公開した。また、PTA主催により１年生情報モラル講演会や、大阪籠球会の方々を招聘した人権講演会を開催していただいた。今年度は久しぶりに人数制限がない学校行事開催となり、多くの保護者の参加があった。 生徒たちが総合学習の学びとして校外に出かける機会は多かったが、今後はゲストティーチャーを招聘するなどし、さらに開かれた学校、地域に根差した活動を推進していく。
	生徒指導	人権感覚を磨き、いじめを許さず、自他共に「命」を大切にするための指導や活動を充実させる。	B	いじめについては、アンケートや教育相談をふまえて、積極的認知及び組織対応に努めた。生徒アンケートでは、「学校へ行くのは楽しい」と考えている生徒が79%で、昨年度より2%上昇した。一方保護者アンケートの肯定的評価を昨年度と比較すると、「いじめや差別のない集団づくり」が78%で４%減、「命を大切にする心を育む教育」が78%で７%減となった。日常的な生徒との関わりや学級経営、指導方法の工夫・改善を進めていく。
		不登校生徒減少に向けての取組の推進と充実を図る。	B	不登校支援委員会を毎週開催し、学年不登校担当・SSW・SCを中心に組織的に取り組むことができた。担任を中心にコミュニケーションを密にし、一人ひとりのペースにあった関わり方を心がけている。時差登校や放課後登校にも対応している。別室は学年ごとに開設し、１時間ごとに担当が関わるようにしている。また、関係機関とも連携しながら個別の対応を必要とする生徒への支援を続けていく。
		学校のいろいろな活動の場面で生徒の達成感や充実感を大切にし、主体的に活動できる生徒の育成を図る。	A	様々な担当の教師が連携し、組織的に取り組むことができた。また、生徒会四役、専門委員長を中心にいろいろな企画をし、生徒自身が主体的に取り組む姿が見られた。学校行事においても、教師の支えがある中で、生徒が主体的に活動する場面が多くあり、行事を通して生徒が成長していった。保護者の90%以上が行事に対して肯定的な回答をしていることも評価できる。来年度以降も生徒自身が達成感を得られる活動を工夫していく。
	安全管理	交通事故の未然防止をはじめ、防災（減災）意識の高揚を図るとともに、安全で安心な学校環境づくりを推進する。	C	定期的な学校施設の安全点検、登・下校時の交通立ち番指導、セーフティー丹波号を活用したパトロール、場面想定を工夫した防災避難訓練の実施など、生徒が安心して生活できる学校環境づくりや、防災意識の高揚に努めている。保護者アンケートでは、「交通指導などの安全対策」の肯定的評価が77%で昨年度から２%上昇したが、交通マナーの乱れに関する記述が複数見られた。指導方法を工夫し、生徒の意識向上に努めていく。

教育課程	学習指導	基礎学力の定着と学力向上をめざして、家庭学習の充実や個々の生徒に対応した支援に取り組む。	C	生徒アンケートでは、「ほぼ毎日、家庭学習を１時間以上行っている」割合が43%と、昨年度とほぼ同様の結果となった。だが、「意欲的に授業を受けている」割合においては、11%減少した。「分かった」「もっと学習したい」と、興味や関心の持てる授業改善に取り組み、授業での学びが自主的な家庭学習や主体的な探究活動につながるような工夫改善を進めていく。タブレットを効果的に学習に取り入れ、協働的な学習、個別最適化の授業の充実を図っていく。
		授業内容の充実と改善を図り、全職員で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて課題に興味を持ちながら主体的に取り組む。	B	昨年度より「探究的な学びの創造プロジェクト事業」の指定を受け、教科および総合的な学習の時間に探究のプロセスを取り入れ、生徒自身が「主体的で対話的な深い学び」を追求できるよう授業改善を図っている。だが、生徒アンケートでは、「授業はわかりやすく、よく理解できている」割合が72%と昨年度より、５%減少した。その点を重視し、デジタル採点システム等を活用した小テストや定期テストの結果分析から生徒のつまずきを的確に捉え、さらなる授業改善に生かしていく。また、校内授業研究を推し進め、効果的な指導方法のあり方について全教職員で研鑽を深めていく。
課題教育	特別支援教育	特別支援教育の推進や支援の必要な生徒に対するきめ細かな教育の推進と充実を図る。	B	教職員アンケートでは、支援の必要な生徒たちへの共通理解と支援の推進について、昨年度より肯定的な評価が28%上回った。今後も個別の指導計画やサポートファイルなどによる指導体制を進めていく。また、小中の連携と推進体制の構築は肯定的な評価が84%であった。小中交流会や相互の授業参観などを生かしながら、引き続き連携を進めていく。

３　学校関係者評価（学校運営協議会による評価）

・スマホにより友達関係が濃厚になってきている。いじめにつながっているケースもあるので、情報モラルについての学習を積み重ねてほしい
・地域の人材が学校のパートナーとして学校に入りやすい環境づくりを進めていただきたい。（ボランティアリストの作成等）地域に開かれた、地域とともにある学校を目指し、少しずつ協働活動を推進してほしい。
・避難訓練は、地域住民や保護者さらに消防団との合同訓練をしてはどうか。
・この３年間生徒は閉ざされた中で生きており、体験してほしいこともできなかった。その回復のためにも意図的に体験や探究活動を推進してほしい。
・主体的に行事に取り組むことは大切である。達成感は意欲の向上につながる。ICT も大事であるが、リアルな体験が学校には必要である。
・体育大会では失敗した生徒に微笑ましい声掛けが見られ、よい雰囲気が感じられた。人権意識が向上しているように思った。
・オープンスクールの授業参観は民生委員にも案内し、交流できる機会を設けてほしい。
・登下校時気持ちのよい挨拶をする生徒がいる。
・不登校傾向の生徒が多いことが気になる。サポートルームでの対応等、登校しやすい環境づくりに努めてほしい。
・探究的な学びにより地域交流（学習）を進めていることはよいことである。また教科学習にも探究的な学びのプロセスを取り入れていることも継続してほしい。
・指導方法の工夫改善をどのように進めるのか、授業改善の方策や具体例を示してほしい。
・HP は学年によって内容や更新の頻度も偏りがある。HP の在り方を検討すべきではないか。

４　次年度の改善の方向性

①生徒の「主体的な学び」の向上を目指し、探究のプロセスを取り入れた授業づくりと学び方の工夫を進める。
（授業力向上に向けた研修の充実、学習相談の充実、個別最適な学びと協働的な学びの充実など）
②生徒が安全で安心できる「居場所」としての学校の在り方を見直し、あらゆる活動を通して多様な価値観を認め、自他ともに大切にする人権教育を推進するとともに、日常的な生徒との関りや学級運営、指導支援の工夫・改善を進める。
（自治的な学級・学校づくりの推進、生徒会活動の充実、自尊感情や自己有用感の向上、いじめや不登校の未然防止、サポートルームの充実、情報モラル教育の推進など）
③命を大切にする心や思いやりの心など「心の教育」の充実を図るとともに、探究的な学びの充実により、未来に希望を持ちたくましく生きる生徒の育成を進める。
（防災意識・交通安全意識の向上、体験教育・キャリア教育の充実、基礎的・汎用的能力の向上など）
④コミュニティー・スクールを土台にした「地域とともにある学校づくり」、並びに「信頼される学校づくり」を進める。
（家庭連携、教育相談の充実、情報発信の工夫、地域連携、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の推進、小中連携、連携型中高一貫教育の推進など）

令和６年３月１日　　学校名　丹波市立氷上中学校
校長名　　大　槻　隆　浩